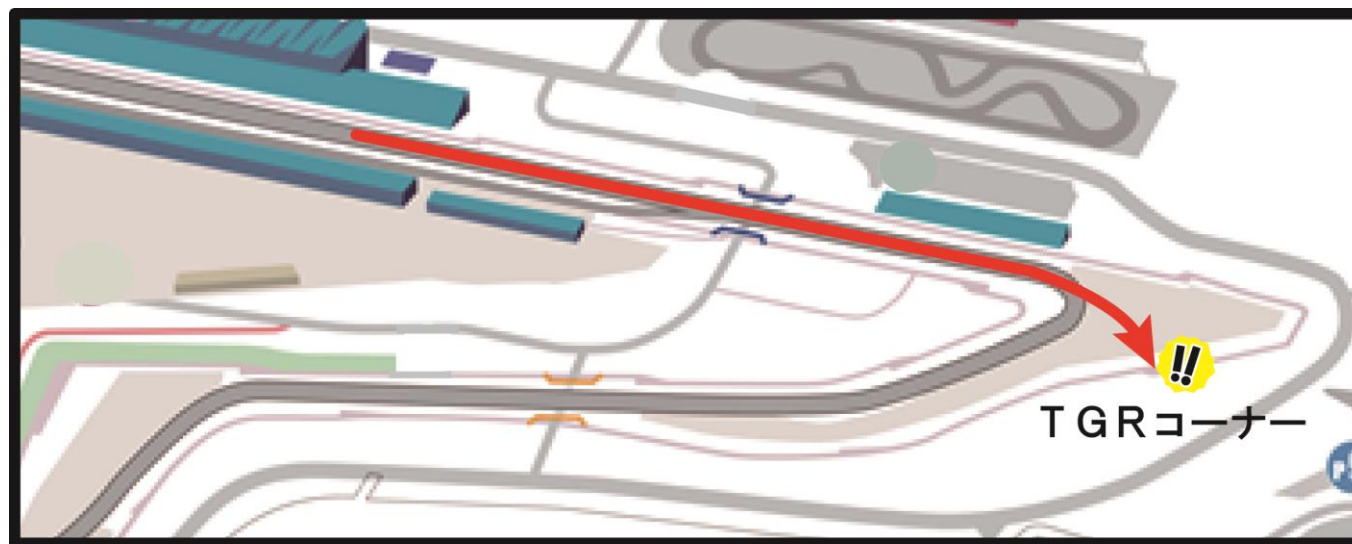


安全のため必ず、ご一読ください

FISCOライセンス会員の皆様へ

12月より、レーシングコース4輪スポーツ走行におきまして、主に**フェード現象が起因となった**ブレーキトラブルによるTGRコーナーでの衝突事故が立て続けに発生しております。ブレーキトラブルは**コースインより全開走行で【6～8周目】**に多発しており、とくに、**ブレーキとタイヤの温度バランスが合わせにくい「冬場」に事故が発生する傾向**にあります。冬場はタイヤの温度が上がりにくく、いざタイヤが温まってアタックした時には、ブレーキが限界に近づいているケースがございます。

ブレーキが原因となる事故が発生した場合、スピード域も高いため、まずもってご自身のお身体や車両へのダメージが大変大きくなります。**走行前のブレーキ整備に加え、危険な兆候の予知や走行方法にご注意いただくことで、衝突事故の発生を大幅に減らすことができます**ので、冬場の走行においては、特にご注意ください。加えて、スピード域が高い事故の場合、サーキット施設に対する破損も甚大で大規模になる場合が多く、復旧工事のため、以降のスポーツ走行は中止せざるを得ない状況にもなります。当日ご来場いただいた他のライセンス会員の皆様にも「走行を断念いただく」など、事故による影響はご自身だけでなく様々なところへ波及いたしますので、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。



発生件数

12月 3件

1月 2件

サーキット走行でのブレーキトラブルについて

フェード現象

ブレーキパッドには種類によりローター適正温度があり、ローターの適正温度を超えると、ブレーキを踏み込んでも制動力が発生しない『フェード現象』が起こります。通常の走行ではローター温度は【250℃前後】ですが、サーキットでの全開走行は【800℃近く】まで上昇することがあります。ブレーキパッドの性能を十分発揮するためには使用条件温度に適したブレーキパッドを選択することが重要です。一般的な純正ブレーキパッドの適正温度は300℃前後までとなり、サーキットでの全開走行を続けると、『フェード現象』の危険性が増すことから、**サーキット専用のブレーキパッドを装備することが重要**です。なお、**車重が重い車両やトップスピードが速い車両は、ローター温度が高くなる傾向があります。**

サーキット走行に適した800℃対応の専用ブレーキパッドを推奨

詳細は各ブレーキメーカーにお問い合わせください。

危険な前兆

1. ブレーキの感触がやわらかい
2. 通常より奥まで踏み込まないと効かない
3. 制動距離が長くなる

前週のダンロップコーナー等でブレーキングに違和感を感じるがあったら、次のストレートではブレーキが効かないかも！！

事前整備・走り方

ブレーキトラブルを防ぐためには、**ブレーキパッドやブレーキフルードの交換は重要**です。ブレーキを冷ます導風ダクトや、放熱性の高いブレーキローターを導入することも効果があります。**コースインより全開走行を続け【6～8周目】にブレーキトラブルが発生する事例が多数あります。****また対策品を装備しても過信せず、2～3周アタックしたら、クーリングラップを入れてブレーキを冷ますのがベスト！**クーリングラップ中は急な走行ラインの変更はせず、後続車両にレコードラインを譲りましょう。